



地域の伝統芸能と和楽器を組み合わせた「音楽」の 教材開発に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学へき地教育研究施設 公開日: 2010-03-29 キーワード: 作成者: 尾藤, 弥生, 中村, 政雄, 杉本, 邦雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00009811

地域の伝統芸能と和楽器を組み合わせた 「音楽」の教材開発に関する研究

尾藤 弥生 中村 政雄 杉本 邦雄
(北海道教育大学函館校) (知内町立知内小学校) (恵山町立尻岸内小学校)

Studies on development of teaching materials in “music education” at which regional performing arts and Japanese musical instruments are combined

Yayoi BITO, Masao NAKAMURA and Kunio SUGIMOTO

1. 研究の背景と目的

児童は身近かで、実感を伴う学習内容に興味、関心を示し、意欲的に取り組むと考えられる。このような状況で学習にとりくんだ時、自ら学び自ら考える力も十分働き、それらの力が育成される。このことについて、状況的学習論では、「子供が興味を持つ本質的な内容を備えた教材は動機づけられる」と、また、「子供にとってその内容から、個人的意味を見いだせない動機づけられない」とも述べられている。これらのことから身近かな内容は、子供の興味を引き付け、動機づけが行いやすいと考えられる。

そこでここでは、協力校の地域の伝統芸能の恵山太鼓（昭和45年結成、恵山太鼓保存会あり）の表現内容、恵山町の情景（町の基幹産業や自然のすばらしさ）を太鼓で表現したものを素材とすることとした。そして、その身近な素材の表現内容を、児童が昨年度多少体験した和楽器“箏”を利用して表現することで、和楽器への理解を深めることができると考えた。さらに、音・音楽で自己表現する喜びを味わうと共に、児童一人一人の個性を生かし育てることができ、児童の創造力や工夫する力も育てられると考えた。

これら、一人一人の個性を生かし、創造力や自ら考え工夫する力を育成することは、平成14年度施行の学習指導要領の改訂の方針及び音楽科の改訂の趣旨の中でも求められている。これらの中で具体的に関わる部分としては、①自ら学び自ら考える力、②各学校が創意工夫を生かした特色ある教育を進める、③我が国や諸外国の音楽文化についての関心や理解を一層深める、④個性的、創造的な学習活動をより活発に行う、が上げられる。

本研究では上記の改訂の趣旨を生かしつつ、小規模校

の児童の現状にふさわしい「音楽」の教材を開発することを目的とする。

2. 研究内容

2-1 研究概要

本研究では研究目的を実現するため、以下の3項目のねらいに沿って教材の実践例を設定して実践したいと考え、亀田郡恵山町立尻岸内小学校（中村政雄校長）の協力を得て、6年生、15名（担任：杉本邦雄教諭）のクラスで担任の協力を得て、平成14年7月に実践を行った。

《教材の実践のねらい》

- ① 地域の伝統芸能に興味・関心を持たせ、自分たちの町に対する理解を深め、自分たちの町の良さに気づかせる。
- ② 和楽器“箏”の良さや様々な演奏方法を体験を通して感じとらせる。
- ③ 子供達が本来もっている創造力を呼び起こし、音や音楽で自己表現できる表現能力及び主体的学習能力を育成する。（1学年15名程度の小人数なので、一人一人の個性を引き出しながら指導できる。）

2-2 協力校の実態について

恵山町立尻岸内小学校は、一学年一クラス（6年生は15名）全校児童93人の小規模校で、渡島半島南東部の海沿いの漁村地域である。「表1」からも読み取れるが、地元在住の住民がほとんどであるため、子供達は幼稚園の時から同じメンバーでさまざまな活動や学習を行っている。そのため新しい出会いや学習上での刺激も少なくおおらかである。また、音楽についても生演奏を聴く機会がほとんどないため、鑑賞を通しての感動や音楽

に対するレディネスが少ないため表現に広がりを持たせることに困難な面がある。これらのことが学習面で不利な点として働くことがある。しかし、その反面自然の恵みが豊かなので、その良さを生かした学習を展開することができると思う。

協力校の6年生の平成14年度の音楽の年間カリキュラムは、「表2」の通りである。

(表1)

《小規模校の特性について》

項目	メリット (よい点)	デメリット (不利な点)
児童数	・人数が少ないので一人一人に指導が行き届く	・人間関係が、幼稚園から同じで刺激が少ない ・男女比が不規則
音楽の授業について	・一台の楽器を、小人数で扱える ・小人数アンサンブルが適している ・一人一人の学習状況、理解状況を十分把握し、個性を生かしながら授業が行える ・空教室やプレイルームをグループ活動に利用できる	・大合唱や大合奏がムリ ・ピアノの弾ける子供が少ない
音楽経験		・生の演奏会を聴く機会が少ない ・家庭で音楽を聴くことや演奏することが少ない
メディアの影響 地域の特性	・TVについては都会同様 ・自然環境に恵まれているのでそれを生かした指導ができる ・地域の伝統文化や芸能を生かし地域住民と一体になって取り組める	・その他では都会と違いは少ない

(表2)

《尻岸内小学校6年音楽年間計画》

目 標	(1) 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。 (2) 音の重なりや和声の響きに重点を置いた活動を通して、基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする。 (3) 音楽の美しさを味わって聴き、さまざまな音楽に親しむようにする。
-----	---

月	時数	単元 (題材など) 名	月	時数	単元 (題材など) 名
4	4	◎季節を歌おう ・おぼろ月夜 ◎音楽のよるこび ・ロックマイソウル	10	6	・カノン ・ふるさと ●学芸会へ向けて
5	5	・カントリー・ロード ・語り合おう ・こいのぼり ◎1年生を迎える会の歌 ・歌がいっぱい	11	6	◎音楽の旅 ・世界の音楽 ・春の海・琴と尺八物語 ・君に会えて
6	6	◎音楽の味わい ・赤とんぼ ・山田耕作の歌曲 ・オペラディ・オペラダ	12	3	◎室内楽の音楽を楽しもう ・アンサンブルの魅力 ◎冬の集会の歌

7	4	◎音楽でえがこう ・「ダフニスとクロエ」から ◎夏の集会の歌 ・青い空に絵をかこう	1	2	◎わたしたちの音楽 ・つばさをください ◎卒業式に向けて
8	1	・野に咲く花のように	2	4	・校歌 ・君に会えて ・6年生の歌
9	5	◎学芸会に向けて ・明日があるさ ・野に咲く花のように ◎豊かな表現 ・交響曲第5番「運命」	3	4	・さようなら ・君が代 ☆全校音楽

2-3 協力校6年生の児童の実態について

昨年度5年生の時、僻地教育研究の協力校として5時間程、創作及び多少箏を演奏する学習を行っている。創作については、地域の特産物の名称を素材として、声で表現する作品の創作、スピーキングコーラスを初めて体験した。また、箏は1時間「さくらさくら」を演奏する体験を行った。

2-4 本研究での開発教材の概要と意義

(1) 題材名

《「恵山の一日」を箏で表現しよう!》

(2) 題材設定の理由

本題材は、地域で行われている伝統芸能の表現内容を音楽の表現のための素材として利用することで、児童にとって身近な内容であるため、自分なりのイメージを持って表現することが行いやすいと考え設定した。また、表現のための楽器として箏を取り上げたのは、昨年度「さくらさくら」の演奏体験をわずかながら行っている。今年度はその経験を生かし、箏の多様な音色及び余韻の変化、演奏方法への理解を深め、それらを創作作品に取り入れることで、箏への味わいを深化することができると思ったためである。

これら児童がとりくみやすい条件を設定することで、児童の学習意欲を引き出すことができると考えた。そして、このような中で児童は、自分たちで創造する活動を通して、試行錯誤して作りあげる力や自分の表現したいイメージを表現するための、工夫する力が、育成できると考えた。つまり、「生きる力」の育成につながると考え本題材を設定した。

(3) 目 標

- ① 自分たちの生活の身近な内容を再認識し、それを音や音楽で表現することに、意欲的に取り組む。
- ② 自分の表現したいイメージを音楽で表現するための演奏方法を工夫する。
- ③ 和楽器“箏”の様々な演奏方法を習得する。

- ④ 作曲家の作品や仲間の作品から、箏の様々な表現方法及び表現内容を、聴きとることができる。
- ⑤ 仲間と協力して、作品を作り上げることができる。

(4) 教 材

- ① 恵山太鼓
- ② 日本の音階による即興演奏
- ③ 春の海（宮城道雄作曲）
- ④ 瀬音（宮城道雄作曲）

①の作品からは、その表現内容を活用する。児童の創作作品と①の作品の関係は、「表3」の通りである。

「表3」

《恵山太鼓と箏による創作との接点の対照表》

素 材	伝 統 芸 能 和太鼓	箏による創作曲 箏
楽 曲 名	恵山太鼓	創作曲
音楽の要素	リズム	リズム, 旋律 (日本の五音音階) 和音
学 習 領 域	器楽	器楽, 表現の創作
曲の構成と 表現内容	プロローグ 恵山の夜明け 漁師の一日の仕事のはじまり (労働の喜び, つらさ, 楽しさ, 苦しみ) 夕闇せまり浜と山に静寂 漁師の一日の仕事の終わり 恵山大漁太鼓 荒波で船底一枚に命をかける 漁師の心意気 恵山の山太鼓 活火山の神秘性雄大な包容力植物の恵 (つつじ, もみじ, 高山植物)時に優雅 (恵山太鼓のパンフより)	児童による創作曲の構成案 恵山太鼓の表現内容を取り入れて A 恵山の夜明け 漁師の一日の仕事のはじまり B 昼間, 荒波で船底一枚に命をかける, 漁師の心意気 A' 一日の終わり 夕暮れの浜と山 (神秘の活火山と植物の恵み) すべてが静寂につつまれる 箏の演奏法, 間の取り方を学び, 取り入れる。

②については、創作の導入としての旋律作りの練習として取り上げる。

③④は宮城道雄作品で、③は穏やかな春の瀬戸内海を描写した作品で、④は利根川の急流やせせらぎを描写した作品である。今回、海に接した町である「恵山の日」を表現するため、波や海や水の様々な表現が、必要になると考えた。この2作品は、箏の多様な演奏法を駆使して波や海や水に関わる表現が大変多く取り入れられているので、児童が自分たちの創作に生かすのに、大変有効であると考え参考曲として鑑賞する事とする。

(5) 指導計画

全5時間で、導入から創作作品の発表まで行う。

導入では、児童は旋律作りをすることが、初めてであるため、短い旋律の模倣や短い旋律作りを取り入れた。ここでは、音を組み合わせると旋律ができることに気づかせ、創作することに自信を持たせようとした。今回は箏を五音音階に調絃しているため、間違えて音階以外の音を弾く心配がない。従って初心者でも必ず旋律作りができる利点があると考えた。

展開では、表現内容を各班が決めたところで、創作の表現方法の参考となる楽曲を鑑賞することで、意欲的に集中して鑑賞できると考えた。また、表現内容が児童にとって身近な素材であるため、初めての創作でもイメージが広げやすく、短時間で作品を作ることができると考えた。

今回の創作では、朝、昼、夕方と曲の雰囲気や表情に変化を与えるため、それぞれの部分にふさわしいと思われる五音音階を提示した。朝は一日の始まりなので、明るく清々しい感じが良いと考え、現代箏曲の「鳥のように」(沢井忠夫作曲)の音階を利用した。昼は、活動場面なので、日本の民謡の音階である乃木調子を利用した。夕方は、少し静かに落ち着く感じを求めて、陰音階の平調子を利用した。児童は箏による創作が初めてであり、さらに、この活動に使用できる時間も限られていたので、曲の構成に関しても、ある程度の構成の参考例を示した。さらに、作品作りの部分的なフレーズのアイディアも幾つか示し、創作の補助資料とした。

詳しい内容と指導上の留意点などは、「表4」に示す通りである。

(6) 評 価

- ① 音・音楽で自己表現することに積極的に取り組んだか。
- ② イメージにふさわしい表現方法、演奏方法を工夫したか。
- ③ 箏の様々な演奏方法を理解し習得できたか。
- ④ 仲間の作品の表現の工夫や表現しようとしていることを、聴きとることができたか。
- ⑤ 仲間と協力して、創作活動に取り組むことができたか。

2-5 開発教材の実践の結果

実践の結果として、児童の毎回の学習の感想及び児童に対する担任の観察「表5, 6, 7」, 児童の創作作品「楽譜A, B, C」, 創作活動の授業記録の一部を以下に示す。

① 各班の作品の解説

「朝」の班

それぞれの部分の表現方法に苦勞していたが、最終的にはそれぞれの部分のイメージを音で表現できていた。

「表4」

《指導計画》(全5時間)

過程	ねらい	学習内容・活動	指導上の留意点・支援
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統芸能への関心を高める 即興で旋律を作ることに慣れる 	<p>～～箏による創作への導入～～</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の恵山太鼓の成立と表現内容を理解する。 民謡の音階に調絃した箏で、教師の演奏する2小節の旋律を模倣する。 民謡の音階に調絃した箏で、各自2小節の旋律を自由に作る。 各自が作った旋律をつなぎ合わせる。 オステイナートに合わせて、二つのグループが作った旋律を同時に演奏して、二重奏の作品に仕上げる。 自分の旋律を記録(絃の番号で)する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のシンボルを作ろうと昭和45年に創作されたこと、地域の人々の思いを理解させる。 恵山太鼓の表現内容を理解し共感する。 箏の基本的奏法を思い出させ、復習させる。 五音音階に調絃した箏では、どのように演奏しても、旋律が作れることに気づかせ、創作することに自信を持たせる。 各自に旋律を考える時間を与える。 一定のテンポに合わせて演奏することで、ひとつの作品に仕上がることに気づかせる。 今後創作した時、自分たちの作品を記録できるようにするため。
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の理解 創作活動への自信を深める 	<p>～～「恵山の日」を箏で表現しよう～～</p> <ul style="list-style-type: none"> 恵山太鼓の表現内容を理解する。(恵山町の基幹産業(漁師の一日)や自然の雄大さ、すばらしさの情景を表現している。) 箏の様々な奏法を知る 恵山町の日を朝、昼、夕方、の3つの場面に分けて表現することを理解し、班ごとに担当する部分を決める。 前時の自分たちの演奏を鑑賞する。 各分担当ごとに使用する五音音階を理解する。 各分担当ごとの作品の作り方のヒントを、理解する。(表現内容、曲の形など、《箏・創作学習シート》参照) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの身近かな素材を表現していることを理解し、自分たちなりに町の様子を表現することに意欲をもたせる。 基本的奏法以外の様々な表現方法があることを奏法の例を演奏し、説明して理解させる。 創作のイメージの参考として、地域を撮影した写真などをもってくるように指示する。 全員の旋律をつなげることで、ひとつの作品になっていることを認識させる。 部分ごとにふさわしい音階を提示する。 ある程度、参考になるものがあることで、創作が行いやすいと考えたため。
第2・3・4・5時	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの表現したいイメージを考える 創作のアイデアを参考曲から学ぶ 自分たちの表現したいイメージを音で表現する 	<p>～～班ごとの創作活動及び作品発表～～</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現する内容を話し合っ決めて。 波、海、水の表現方法の参考として、箏曲「春の海」と「瀬音」を鑑賞する。 箏のいろいろな奏法のビデオを視聴する。 実際に楽器を演奏しながら、創作する。 各班が中間発表する。 各班の作品の感想を記入する。 各班が作品に改善を加える。 各班が最終発表する。 各班の作品の感想及び自分たちの作品に対する感想を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> イメージを膨らませられるよう、普段の生活を思い出させる。また、その時の心情も思い出させ、表現内容に生かさせる。 海に接した町恵山町を表現するためには、波、海、水の表現が必要になると考えられるため。 ビデオで鑑賞することにより、どのように演奏するとどのような音になるか視覚を通して理解させる。 さまざまな奏法を取り入れられるようにするため。 創作したものを忘れないよう記録させる。 お互いの作品の良さやアイデアに気づき、自分たちの作品に取り入れる。 本番一人一面の箏を使用するという演奏の感覚を体験させるため。 教師から、よりよくするためのアドバイスを提示する。 自らの反省や他者からのアドバイスを思い出して、改善させる。 中間発表との違いを意識して聴かせる。

〈恵山太鼓の表現テーマによる・箏・創作学習シート〉

H14.7.9

・創作方法

- ①音階を決める→プリントを参考に
- ②どんな場面を表現するか、具体的に決める。
- ③繰り返し使う旋律パターンを決める→プリントを参考に
- ④曲の形を決める→プリントを参考に
- ⑤④の形に沿って、旋律を作る。
- ⑥ひとつの旋律だけでなく、幾つかの旋律が重なるとステキな表現になる。
- ⑦作った旋律を忘れないよう楽譜（コトの楽譜）に記録する。
- ⑧作った作品を演奏する練習を行う。全員の息が合うように繰り返し練習する。

7月18日(木)発表(各班全員で演奏する)

《プリント》各班の作品の作り方ヒント集

朝～夜明け～の班

・音階→A
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾
 D A B D F G A B D F G A D

・繰り返し使う旋律パターンの例

・表現内容→波の音の表現を入れる。サブーンザザ---

波の音がずっとベースにある

☆テンポゆっくり

☆盛り上がりで音が重なる

☆繰り返しパターンの上に

旋律を作る

☆山場では音が重なる

大 小

昼～海の仕事の風景～

・音階→乃木調子

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾
 E G A H D E G A H D E G A

・繰り返し使う旋律パターンの例

・表現内容→ソーラン節などの軽快な、活気に満ちた曲のイメージ

波の音も出てくる

☆テンポ早め、元氣よく

☆山場では、旋律が重なると盛り上がる

大 小

夕方から夜～一日の終わり～

・音階→平調子

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾
 D G A B D Es G A B D Es G A

・繰り返し使う旋律パターンの例

・表現内容→サンセット、波間にかもめが鳴く、静かな海、

波の音がずっとベースにある

☆テンポゆっくり、静かに

☆最後、音を少なく、ゆっくりする

大 小

「表5」 《各級の児童の学習の記録》 「朝」担当班

氏名	昨年の学芸会で箏を弾いた児童	担任の観察による		本人の学習状況の感想			学習の1ヶ月後 (児童の感想文の要約)	
		本学習への取り組みの積極度	日頃の音楽の学習の積極度との比較	本学習への取り組みの積極度	7月2日 (箏による創作の導入) 第1時	7月9日 (班ごとの創作活動) 第2・3時		7月18日 本発表 第5時 ☆は学習後の全般的感想
A 君	×	○	同	ピアノを習っているので音楽にはいつもまじめに取り組む	途中でへんな音が出たり最後の音に合わないこともあったので少し迷ったりした	やってみて箏を弾くのが難しかった	中間発表の時よりうまくいった ☆あまりうまくはできなかった。最初はうまくいったけど、後半から最初に弾いた音ではなくなつてしまつて難になつた。まだ箏を弾くのは未熟だなと思つた	曲づくりを工夫した。途中班でけんかもあったが、後半一生懸命やつて、自分のにはいい曲を作れた
I 君	○	○	積 極 的	まじめに取り組むが、リーダーになつたが面白い	あまりいい旋律は作れなかつたけど、結構楽しかつたからよかつた	思った通り難しくて、あまり進まなかつた	さつきよりはまあいい☆予想通り難しくて、全然うまくいかなかつた。もつと練習しなさいなと思つた	始めは本当にできるのかと思つた。途中班の協力態勢も悪くて失敗すると思つた。満足のいくものではなかつたが、貴重な体験ができてよかつた
Ya 君	×	○	積 極 的	新しい経験を積んだことがよかつた	どんな組み合わせでも曲ができてからすごいと思つた	思ったより曲作りのアイデアがあまり浮かばなかつた	まとまるようになつた☆思つたより作曲するのが難しかった	班の協力態勢にも問題があり、曲作りは大変だつたけど、良い経験になつた。本番緊張したが成功してよかつた
T 君	○	○	積 極 的	普段の取り組みと比較すると、頑張つたと言える	《欠席》	箏がちゃんと弾けたし自分がやるのをマスターできてよかつた	うまくいった☆曲づくりがこんなに難しいとは思はなかつた。最初は簡単だと思つていたけど、やっぱりあまり見ていてよかった	曲作りも音楽も好きでなかつたが先生にアドバイスをもらつたり、励まされてやる気が出ておもしろくなつた
H さん	○	○	積 極 的	リーダーなど得意な新しい分野を経験できて満足な様子	あまり組み合わせがわからなかつたが、どんな組み合わせでも旋律ができていたのでよかった	アイデアが浮かばなかつたので、私の所だけあまり進まなかつた	中間発表よりは、うまくいったけど、あまりまとまらなかつたと思つた☆曲作りをやつてみて、アイデアが浮かばなかつたり、ちよつとけんかもしたりしたけど、班だけの力で曲づくりができて良い経験になつたと思つた	創作は、静かな所やあくびの所など色々な場面があり、すごく難しかったけど、アドバイスをしてもできなかったので、作る事ができた、すごく楽しかつたし、良い思い出になつた

「表6」 《各級の児童の学習の記録》 「昼」担当班

氏名	昨年の学会で弾いた児童	担任の観察による		本人の学習状況の感想				学習の1ヶ月後 (児童の感想文の要約)	
		本学習への取り組みの積極度	日頃の音楽の学習の積極度との比較	本学習への取り組み状況に関するコメント	7月2日 (箏による創作の導入) 第1時	7月9日 (班ごとの創作活動) 第2・3時	中間発表 第4時		7月18日 本発表 第5時 ☆は学習後の全般的感想
Iさん	×	◎	同	家庭で音楽番組やCDに興味があり、よく聴いているので、やる気は十分	7月2日 (箏による創作の導入) 第1時 最初は作るのもやだっただけ、やっていくうちに、ふしを作るのがおもしろくなった	7月9日 (班ごとの創作活動) 第2・3時 思ったより進んでよかった。曲の練習は大変だった。船の音は難しいけれど、頑張っているように思える	中間発表 第4時 喜んでいいる所が小さかったりしたから、今度はうまくなりたい	7月18日 本発表 第5時 ☆は学習後の全般的感想 音が色々合わさって前よりもとよくなった。大変な所とか喜んでいいる所もうまくなってよかった ☆曲づくりは最初慣れなくていやだと思っていたけれど、やっていると、おもしろいとか楽しいと思えるようになった。自分でも思ったより、うまくなってきたからうれしかった	学習の1ヶ月後 (児童の感想文の要約) 初めは「なんで曲作りしないといけないの」と思ったけど、練習していると、「曲作りって思ってたよりおもしろい」と思うようになっていった。発表の時は少し緊張したし、姿になつたらいやだと思いが残るとはほっとして、達成感がわいてきた。私は時々「また箏で曲作りしたいなあ」と思う
U君	×	○	積極的	リコーダーなどでも左利きと言うことで、ハンデイーをもっているが、よく頑張った	7月2日 (箏による創作の導入) 第1時 色々な音が出てすごかった。押しやすければフニョーンと音がなりました	7月9日 (班ごとの創作活動) 第2・3時 今日はあまりできなかったと思っただけ、結構進めてよかった	中間発表 第4時 喜んでいいる所を大きくする	7月18日 本発表 第5時 ☆は学習後の全般的感想 音が結構よくなったと思っう。スリ爪をやって疲れた☆曲作りをやるとき、最初は大変だったけれど、曲を作っていくうちに慣れました。スリ爪をやって爪が割れた	学習の1ヶ月後 (児童の感想文の要約) 曲作り楽しかった。箏で音楽作ってすごかった。始めは上手に弾けなかったけど、先生に教えてもらって上手にできた
Ma君	○	◎	同	普段の音楽でも積極的。箏など新しい取り組みは新鮮だった	7月2日 (箏による創作の導入) 第1時 一年ぶりで爪を反対にはめてしまった。一年ぶりに弾いて、ひさしぶりという感じだった。今日はとてもおもしろかった	7月9日 (班ごとの創作活動) 第2・3時 練習をもうちょっとすれば、自分ではまあまあよくなると思う。今日一日やってみて次回はおもしろくなりたい	中間発表 第4時 自分の班はとてもうまいくいっただけ	7月18日 本発表 第5時 ☆は学習後の全般的感想 本番はすごく緊張しても間違わなくてよかった ☆最初は箏で曲を作るのは自分ではかなりの時間を使わないでできないうまくなっていくけれど、わりと少ない時間でいい曲を作れてよかった	学習の1ヶ月後 (児童の感想文の要約) 最初は音楽はあまり好きじゃなかった。先生が「こんな所をこんなふうにしたら、もっとよくなるよ」とアドバイスしてくれたのでうまくなってよかった
Yu君	×	◎	積極的	リコーダーも十分できているが、アイディアがいいこの学習ではリーダー的存在となった	7月2日 (箏による創作の導入) 第1時 自分で音を作るととてもおもしろかった。またやりたい	7月9日 (班ごとの創作活動) 第2・3時 音を決めることができたので、後は練習を頑張るだけです	中間発表 第4時 ちょっと音が小さかったけれど、うまくなったのでよい	7月18日 本発表 第5時 ☆は学習後の全般的感想 最初と最後がうまいくいっただけ、曲作りを演奏してよかった。練習以上にできてよかった	学習の1ヶ月後 (児童の感想文の要約) 曲作り、よい経験になった。またやりたい。初めて箏を使ったのもおもしろかった
H君				初めてあまりわからなかったけど、すごい音がでてすごかった。自分で旋律を作れたからよかった		《欠席のため資料なし》			

「表7」 《各級の児童の学習の記録》 「夕方」担当班

氏名	昨年の学会で弾いた児童	担任の観察による			本人の学習状況の感想				
		本学習への取り組みの積極度	日頃の音楽の学習の積極度との比較	本学習への取り組み状況に関するコメント	7月2日 (箏による創作の導入) 第1時	7月9日 (班ごとの創作活動) 第2・3時	中間発表 第4時	7月18日 本発表 第5時 ☆は学習後の全般的感想	学習の1ヶ月後 (児童の感想文の要約)
Kさん	○	○	積極的	新しい分野へ挑戦する姿勢は人一倍、満足したようです	初めて自分で音を出して曲を作るとてもおもしろかった	私はカモメの鳴き声を考えるのに、あまり時間がかからないで、鳴き声を作れたのが、とてもよかったと思います。こんどの練習も頑張りたい	ちよつとまちがったけど、さきいれにできてよかった	中間発表の時と少し変えて発表してうまくできてよかった ☆今回初めて曲作りをしたのに、すぐに考えられてよかった。また箏で演奏したい。とてもおもしろかった	曲を作るとてもおもしろかった。全員で合わせることが十分できなかつたけど、本番うまくできてよかった
Sさん	○	○	同じ	いずれの教科にも真面目に取り組む。いつもの学習のようにやりにくかった	箏って色々な事ができるんだと思った。昨年より興味がわきました	すごくおもしろかったし、考えるのが難しかった。まあスムーズに進んだと思う。色々な場面の音楽を作るのがおもしろかった。発表に向けて頑張りたい	もつとまとまとまった方がよかった	まあうまくできてきたと思う。うまくできてよかった ☆とても楽しかった。曲作りをしたのは初めてだったので、うまくできてよかった。また、演奏して一つの絃でも沢山の音が出るのがおもしろかった。またやりたい	曲作り、自分で作って合わせてもきちんと合わなくて大変だった。一つの絃でも沢山の音が出たのがすごくおもしろかった。夜の曲は簡単そうだから選んだが、曲を作るのは以外と難しかった。自分ではよくできたと思う
Mi君	×	○	積極的	音楽はあまり好きでないようですが、箏は頑張りました	初めて旋律を作った。少しまちがったけど、楽しかった	《欠席》	少しカエルの鳴く所が失敗したから本番では成功したい	本番では中間発表で失敗したカエルの所が成功してよかった ☆最初にカエルと明かりの所をやってみて、リズムがあまりわからなかった。だけど本番ではうまくできたからよかった	夜の事を考えて曲を作った。しかし、箏を弾くのが難しかったのであまりうまくできなかった
Yさん	○	○	同じ	派手さはなく、いつもコツコツと取り組む。発表する機会が、この子を生かしている	自分で音を作るとは思いませんでした。でも音を作れてよかったです。また音作りをしたいです	私は初めて曲を作った。曲作りは思ったより難しかった。でもできてよかった。楽しかった	ちよつと間違えました。皆合わなかったで、残念でした	最初緊張したけど、うまくできてよかった、中間発表よりうまくできてよかった ☆最初はなかなか進まなかったけど、先生にアドバースしてもらいました	最初は曲作りができてよかった。曲作りはすごく難しかった。本番演奏が初の最初だったので、すごく緊張した。最後の音も私達だったので緊張したけど、うまくできてよかった
R君	×	○	積極的	運動能力のすぐれている子。運動面でのリーダー性と協調性をこの音楽の活動でも生かしていた	ちよつとまちがえたけど楽しかった。次はまちがえないように頑張りたい	だいたいメモロディーができてよかった。次の時間は完璧にした	もつと音を大きくしてにぎやかにした方がよかった	中間発表よりうまくできてよかった ☆班で曲を作ると言われ、正直無理だと思っただけで、やってみようと思ったのでよかった	最初は全然できてなかったけど、班で協力して考え、練習しているうちにだんだんできた。箏の音や皆で作りに上げることを学んだ

《曲の構成計画シート》

～昼～海の仕事の風景の班

大 ↑ 音 量 気 持 ち ↓ 小		波の音 船の進む音 漁をしている様子 大漁の魚と格闘 大漁で喜んでいる様子 船戻ってくる 船の音
自分達の表現する部分の情景や風景を言葉で記入		

《曲の構成計画シート》

～夕方から夜～一日の終わりの班

大 ↑ 音 量 気 持 ち ↓ 小		家に帰る時・ゆっくり 家の中の様子・にぎやか 外の様子・海 太陽はある・少し静か 太陽の様子 家の中の様子 家の明かり 暗くなっているからの 全体のカエルなど
自分達の表現する部分の情景や風景を言葉で記入		

《曲の構成計画シート》

～朝～夜明けの班

大 ↑ 音 量 気 持 ち ↓ 小		静かな音 起きてあくび 自転車で仕事場に行く 自ねむい 仕事 お疲れさん何？ 朝食は？ 朝ワクワク
自分達の表現する部分の情景や風景を言葉で記入		

《恵山の一日》

演奏方法の説明：

- へは、ツキイロのような後押しと押し放しを組み合わせた余韻の変化を味わう奏法
- は、流し爪、下隣形のグリッサンド、
- ↗は、引き連、上隣形のグリッサンド、
- ぞは、スリ爪

「朝」の班

「朝」の班
 I mp
 II f
 III mp
 IV f
 V mp

「昼」の班

「昼」の班
 I mp
 II ff
 III mp
 IV mp
 V mp


「夕方」の班

「夕方」の班
 I mf
 II p
 III p
 IV p
 V p

激しい所と静かな所の差があり、変化とまとまりのある作品に仕上がっていた。音を重ねることで激しさをうまく出していた。左手にも爪をはめて両手で流し爪（グリッサンドを上下で行う）を演奏する方法を工夫した。

使用した奏法：流し爪、引き連、後押しと押し放しの組み合わせ、合わせ爪

「昼」の班

テンポの変化、音量の変化、音の重ね方の変化で心の表情の変化、大漁の苦勞と喜びなどをうまく表現していた。全体に流し爪が多かったが、音域やリズムを変えて流し爪に変化をつけていた。左手のピチカートと右手で演奏する  のリズムが船の進む様子をうまく表現していた。曲もABA'の形式でA'の始めが少し静かに始まり曲に効果的な変化をもたらしていた。曲の最後で徐々に音と音量を減らし、静かに終わる感じがよかった。

使用した奏法：流し爪、引き連、スリ爪、ピチカート、
「夕方」の班

徐々に音が重なって行く曲の出だしが、ゆっくりした足取りで家に変える様子と家族で大漁を喜んでいる感じが現れていてよかった。音量と音の重なりの変化で激しさをうまく現していた。また、音が重なる所と各パートの音が独立して強調される部分が対照的に作られていてよかった。

カモメのツキイロのような押し放しが効果的であった。

さらに、スリ爪でカエルの鳴き声を表現するアイデアも効果的だった。最後だんだん音量と音の数を少なくして消えるように終わったのがよかった。

使用した奏法：流し爪、引き連、後押しと押し放しの組み合わせ、スリ爪

② 創作活動の授業記録より

《グループ活動時の各班への助言を中心に》

T：教師 C：児童 ♪：演奏

～～で区切ることで、時間の経過を示す

「朝」の班



T：静かな部分、起きる所、自転車で仕事に向かう所、仕事中、帰って来て朝食を食べる所、と分担して考えよう。静かな部分の担当は誰？……（以下同様）

まず、一人が考えて、それを聴いて他の人が補強するとか。仕事場に行くときは少し波があってもよいかも。

～～～

T：何考えてるの？

C：自転車の音（悩んでいる）

T：♪（演奏見本：合わせ爪で  のリズムの旋律を作るとか、ラソファレ  のように3～4

音をセットとして、順番下降するとかを示す。）

始めゆっくりでだんだん早くするとか、1セット3音ぐらいで下降すると弾きやすいかも。

C：♪（ためしに演奏してみる）

～～～

C：（仕事中の部分を考えこんでいる。）

T：どんなふうにするの。仕事する所のイメージを旋律にするとか。

C：じいちゃんもばあちゃんも楽しそう。

T：楽しそうな旋律にしてみたら。♪（スキップリズムの旋律見本を示す。）こんなあうかも。来週発表だから、頑張ってみよう。

～～～

C：♪（後押しをやりようとしている。）

T：（後押しの方法説明。人差し指、中指の当て方）

C：あくびどうやってやればよいかなあ。

T：♪（音の余韻が変化する、後押しと押し放しを組み合わせた演奏を示す。）

C：（納得の表情）

～～～

C：♪（あくびの後押しと押し放しを組み合わせの演奏のみ練習している。）

T：あくびの押し放しだけでなく、間に旋律を入れてまたあくびというように考えよう。

C：♪（波のグレッサンドばかり練習している。）

T：波だけでなく、旋律も入れよう。5人いるからずっと低音でできたパターンを入れる人がいても良いけれど、その上に旋律や他のパートを重ねるとか考えよう。

～～～

C：♪（合わせて練習している。）

T：今の使える、いいね。即興でもうまくいっているよ。

「昼」の班

T：自分の考えた演奏をメモしよう。

誰がどこを考えるのか分担しよう。波を考える人誰？ 船の音は？ 漁をしている様子を考える人は？ 漁はたとえば♪（わり爪の拡大版のグリッサンドでだんだん音域をあげる）のように表現するとか。

～～～

T：今のリズムいいじゃない（流し爪の激しい変化のあるリズム。）

曲のどこかに旋律を入れよう（流し爪系が多くなりそうなので。）本番は一人一面の箏を使うから、二人が考えたものを重ねて演奏できるから。その

ことを予想して音の重ね方を考えておくと良いよ。

- T: 作ったものをどの部分にいれるか決める。
 ♪ (両手を使って、 f 、 f 、 f) とやっても良いし。
 C: ♪ (激しい所にスリ爪らしき演奏を入れようとしている。)
 T: ♪スリ爪はこのように弾くの(見本を見せて大きな音がだせるように説明する。)スリ爪一人でやるのと5人でやるのでは迫力が違うよ。工夫してみよう。

~~~~~

- C: ♪ (引き連の繰り返しでだんだん早くなるテンポの演奏。)  
 T: 盛り上がる感じ出ている、いいね。せっかくだから一人じゃなくて、少しずつずれて皆が入って盛り上がるとか。  
 T: これは何の場面?  
 C: 魚と格闘している所  
 T: 下降型のグリッサンドだけでなく上降型と交互に演奏すれば。と♪ (見本を示す。) 5人が違うところでグリッサンドやって重ねるとか。違うリズムや旋律を入れる人がいるとか。何と何を重ねるか決めよう。  
 C: ♪ (各自が自分の練習をする。)

~~~~~

- C: ♪ (スリ爪を練習しているが、音が小さい。)
 T: こうやると♪音が大きくなる(やり方説明。)
 最後の音、ミ、ミを追加すると終わりです、という感じになる。

「夕方」の班

◆7月18日中間発表後の練習より

- C: ♪ (全員で合わせて練習している。)テンポ早いよ。あわない。
 T: もしそうなら、1回目一人でやってテンポを決めて、2回目からそれに合わせて次の人が入るとか。
 C: だんだん増えて行こう。
 T: それもいいね。
 C: 始めゆっくりやって、そのあと、だんだん入って少し早くする。
 T: 楽譜の回数はそのまま、重なる前の回数は追加した形にすると良い。
 C: やるよ。いまの所。
 T: 下降型のグレッサンド、いつも同じ所でなくて、音の位置を移動しても良いよ。
 カモメの所、他の人、波♪のように少し入れてもいいんじゃない。ザブーンみたいに入れても。

二人でやるなら、音程を上と下に分けて波を入れると良い。

- C: ♪ (スリ爪を練習しているが、音が小さい。)
 T: スリ爪はこうやると♪いいよ(やり方を説明。)
 二人でやると音が大きくなる。♪ (カエルの鳴くリズムをまねた、見本を示す。)
 C: ♪ (練習。)
 T: スピードをつけるとカエルらしくなる。3人でもう一度。
 C: ♪ (練習。)

2-6 開発教材の実践結果の考察

実践結果としての、児童の毎回の学習の感想及び児童に対する担任の観察、創作活動の授業記録、児童の創作作品を考察の対象とする。そして、これらを2-1で述べた《教材の実践のねらい》の3項目(①地域への目覚め、②箏の特性について、③音楽で自己表現することについて)に沿って、児童の学習全体の状況を考察し、さらに、一人の児童の状況も考察する。

① 地域への目覚め

これに関しては、創作作品の《曲の構成計画シート》の表現しようとする内容によると、恵山町全体の良さをみつめるというより、自分たちの家族や隣人、尻岸内という地域での一日の生活という身近な範囲を意識していたようである。

② 箏の特性について

「児童の毎回の学習の感想」によると、2名の児童が箏の演奏方法や音色の変化に強い興味を持った。その一人の児童Sは1回目の感想で「箏って色々な事ができるのだと思った。昨年より興味がわいた。」と箏の演奏法に関心を示し、最後の感想及び一カ月後の感想で「一つの絃でも沢山の音が出るのがおもしろかった。」と箏の特徴に強い印象をもった。

他の児童は、箏の演奏方法について文章としては記述していないが、作品を創作する段階で、余韻を変化させる方法やスリ爪などの噪音効果を頻繁に使用していたことから、箏の特性を体験を通して理解していたことがわかる。最終的に児童が作品に取り入れた箏の

朝 班	昼 班	夕 方 班
流 し 爪	流 し 爪	流 し 爪
引 き 連	引 き 連	引 き 連
	ス リ 爪	ス リ 爪
押 し 放 し		押 し 放 し
合 わ せ 爪		
	ピチカート	

奏法は、次の通りである。

これら箏独特の奏法については、学習の様々な場面（演奏の模範を聴かせる時、色々な弾き方があることを説明する時）で、参考として聴かせていたため、余韻の変化に興味を示し取り入れたものと思われる。このことは、グループ活動中の授業記録の児童の活動状況からもわかる。

噪音効果の奏法として、児童らしい新鮮なアイデアであると思われたものは、スリ爪で「カエルの声」を表現しようとするものと「船が水を切って進む音」として取り入れた点である。この奏法は箏曲の中では、一般的に風の音の表現として使われている。

③ 音楽で自己表現することについて

本学習において、児童は普段何げなく見ている風景や生活の中の出来事を再認識し、それを第三者に伝えられるようイメージを広げ、それらを音や音楽で伝えるため再構成することができていた。この時、児童はどう伝えるか、またどう構成するか、自分の頭の中で自分のもっているすべての知識や知恵を活用して、試行錯誤して考えていた。このような活動は児童の、「生きる力」「自ら考え学ぶ力」を育てることができる。さらに、音楽や音によるコミュニケーション能力の育成もできる。

これらの成果は児童の「すごく楽しかった。おもしろかった。またやりたい。うまくできた。自分的にはいい曲が作れた。いい経験になった。」などの記述からわかる。ほぼ全員の児童が、音を使って自分で表現することの喜びを感じ取っていた。また作り出すためには、楽しいだけでなく、創造することは、苦労や試行錯誤が伴うものであることも実感として感じ取っていた。

今回児童は、導入段階での旋律作り、つまり自分で音を並べて旋律を作ることを通して、ふし作りのおもしろさを味わっていた。このことは、作った旋律を全員が順番に交替で演奏する学習の時の、楽しくも真剣な表情から読み取ることができる。しかし、班ごとに分担を決めての創作する段階で、表現したいイメージを音で表現することに悩んでしまった児童がいた。これらを解消するには、導入段階の学習でもう少し時間をかけて、様々な場面を音で表現する練習をすることが必要であると思われる。

④ 学習における変化の顕著であった児童Iについて

児童Iの学習の感想からは、③の音楽で自己表現することについて顕著な変化がみられた。初めは「なんで曲作りしないといけないの」と思ったものが「曲作りって思ったよりおもしろい」と肯定的になり、「船の音作り思ったより進んだ」そして、学習後「また箏

で曲を作りたい、箏以外でも曲作りしたい」と、自ら音を組み立てて作ることの楽しさを感じとっている。

また、中間発表の後「喜んでいる所が小さかった」と感じとり、本番改善を加え、「音が色々組合わさって前よりもよかった。大変な所とか喜んでいる所もうまくできてよかった。」と、音量変化、音の重なり、テンポの変化など音楽の様々な要素から、作った曲をよりよくするための方法について敏感に感じとっていた。

このような学習結果の背景には、児童Iの意欲的態度、関心や興味を持って学習に望んでいたことが大きく影響していた。児童Iは、自分たちの前回の即興演奏を視聴する時も参考曲をビデオで鑑賞する時も、どのように弾いているのか、読みとろうという表情でテレビにくぎづけで、かなり集中して視聴していた。この学習の成果が、自分の表現したいイメージを音で表現するとき、生かされていたと思われる。この日、授業を参観していた他校の先生は「小学校6年生が“春の海”と“瀬音”の2曲を集中して鑑賞できるのはすごい。」と感心していた。

3. まとめと今後の課題

本研究により開発した教材を通して、音で自己表現する経験の少ない児童でも、自分たちの身近かな生活の中の場面を表現するという方法（ここでは地域の伝統芸能表現内容に取り入れられたものを取り上げた）を取り入れることで、表現しようとする意欲が高まり、積極的に創作表現活動に取り組むことができた。また、箏という表現素材は、児童にとって経験の少ないものではあったが、箏は、旋律創作もでき、さらに、擬音的、効果音的な音も出すことができるという、有利な二つの側面も持っているので、創作が行いやすいという知見を得た。

このような活動は、一人一人の可能性を引き出し育て、一人一人に充実感のある学習を行わせ、加えて班で協力して一つの作品を仕上げ演奏するという協力性や協調性も求められる。そのため、一人一人の活動や学習状況にあわせた指導や支援が必要になるが、小規模校では、それらがきめ細かく行える利点があることがわかった。

小規模校の一つの学年単位では、40人50人で大きな合唱曲を仕上げる充実感を味わうことは、物理的に難しいが、反対にこのような一人一人を生かす音楽活動を通して、音楽体験の喜びと充実感を味わわせるには適していることがわかった。

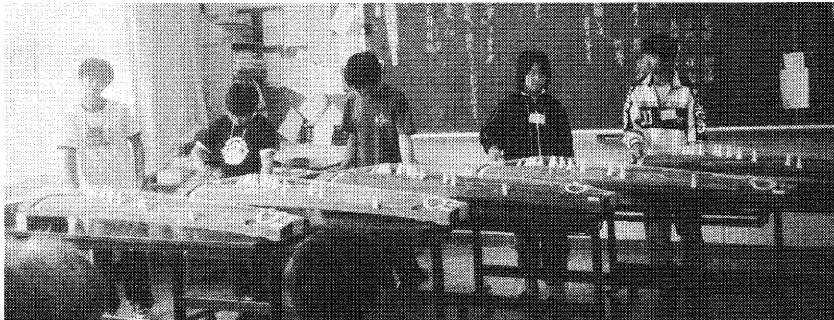
今後このような学習活動が多く各学校で実践され、音楽を通して、児童の「自ら学ぶ力」や「生きる力」が育成できることを期待している。

参考文献

藤岡完治「学校を見直すキーワード～学ぶ・教える・かわる～」『学ぶこと教えること』鹿毛雅治・奈須正裕編著 金子書房 PP.1-24 1997
安藤政輝『生田流箏曲』講談社 1986
尾藤弥生「和楽器の教育的活用法の研究」北海道教育大学附属教育実践総合センター紀要第3号

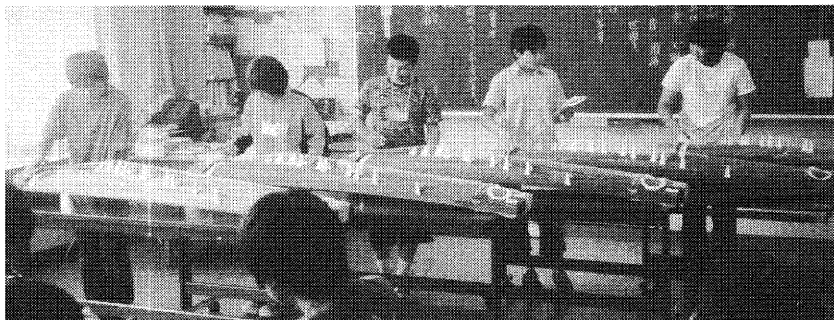
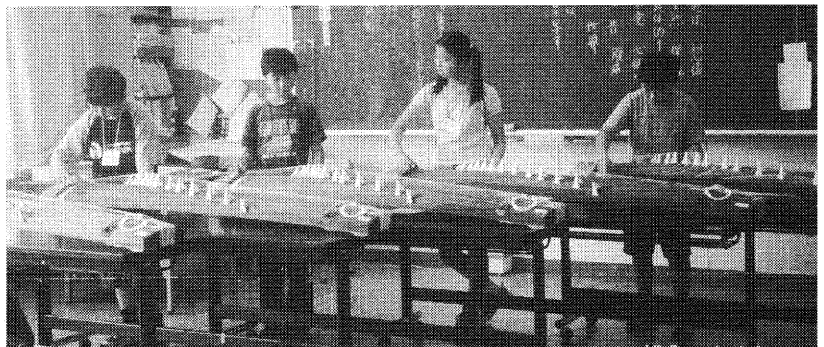
PP.129-137 2002
尾藤弥生「つくる活動から学ぶ 和楽器を用いる～箏による音楽づくりから～」『日本音楽を学校で教えるということ』日本学校音楽教育実践学会編 音楽之友社 PP.108-121 2001
恵山太鼓保存会「恵山太鼓の解説」
沢井忠夫作曲「鳥のように」ミュージック・エスビデオ NHKビデオ『日本の楽器シリーズ 箏』

《「恵山の一日」を箏で表現しよう!》発表風景



◀「朝」担当班

「昼」担当班▶



◀「夕方」担当班

創作活動風景

